

第6回日本ジオパーク委員会 議事録

日時: 2009年10月28日(金) 13:00~17:00

場所: 経済産業省・別館10階 1020号会議室

出席者

委員長

尾池和夫 国際高等研究所 所長

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会(東京都立大学 名誉教授)

委員(五十音順)

伊藤和明 NPO法人 防災情報機構 会長

加藤碩一 産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表

小泉武栄 東京学芸大学 教授

鹿野久男 (財)国立公園協会 理事長

瀬古一郎 (社)全国地質調査業協会連合会 会長

高木秀雄 日本地質学会(早稲田大学 教授)

中川和之 日本地震学会(時事通信 編集委員)

中田節也 日本火山学会(東京大学地震研究所 教授)

オブザーバー

外務省広報文化交流部国際文化協力室 課長補佐

外務省広報文化交流部国際文化協力室 事務官

文部科学省国際統括官付統括官補佐

文部科学省国際統括官付 ユネスコ第3係長

経済産業省産業技術環境局知的基盤課 課長

経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐

文化庁文化財部記念物課天然記念物部門主任文化財調査官

農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課土地保全係

農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課事業係

林野庁国有林野部経営企画課環境保護調整係 係長

観光庁観光地域振興部観光資源課

渡邊 博

豊田友紀子

清水宣彦

岩下文香

渡邊重信

永田邦博

桂 雄三

梅島 悠

岡庭信幸

佐野周二

松岡 良

事務局

産業技術総合研究所 佃 栄吉

産業技術総合研究所 脇田浩二

産業技術総合研究所 高橋裕平

産業技術総合研究所 渡辺真人

産業技術総合研究所 濱崎聡志

産業技術総合研究所 吉川敏之

産業技術総合研究所 中島 礼

産業技術総合研究所
糸魚川市東京駐在所

澤田結基
斎藤清一

プレス 11 名

新日本海新聞、神戸新聞、福井放送、熊本日日新聞、西日本新聞、日本経済新聞、朝日新聞、
共同通信、北海道新聞、山陰中央新報、

配付資料

- 資料 1 第 5 回日本ジオパーク委員会議事録（案）
- 資料 2 世界ジオパークネットワーク加盟審査の経過
- 資料 3-1 世界ジオパークネットワーク申請候補地域現地審査報告書
- 資料 3-2 日本ジオパーク申請地域現地審査報告書
- 資料 4 2010 年の募集・審査スケジュール（案）
- 参考資料 第 33 回全国育樹祭における皇太子殿下のおことば

13:00～

【委員長挨拶】

これまでの現地審査への感謝、本日のジオパーク認定審議への協力依頼、当初9月開催予定の本委員会が10月へ延期された経緯、今後日本で良いジオパークが誕生することへの期待などが述べられた。この後、報道関係者退室。

【資料確認】

事務局より、ページと資料番号の対応が確認された。

【第5回委員会 議事録確認】(資料1)

委員会終了までに特に指摘等なかったため、承認となった。

【世界ジオパークネットワーク加盟審査の経過説明】(資料2)

7-8月の3地域(洞爺湖有珠山, 糸魚川, 島原半島)の現地審査に同行した。非常にハードであったがきちんと審査をしてもらった。説明板やガイドなどに関しても、細かい指摘・指導を受けた。最終的には3地域全て認定されることになった。

<質疑応答>

- ・世界ジオパークになっても4年に1度の再審査があり、認定後の具体的な活動がかなり厳しく審査される。今年日本3, マレーシア1が加わり、来年は韓国, ベトナムなどからも申請の動きがあり、中国以外にも応募するようになってきた。今回の認定地域には、来年マレーシアの第4回GGN国際会議で認定証が授与される。
- ・8月の会議で、アジア・パシフィックジオパークネットワーク(APGN)のアドバイザー委員会が発足した。実際の活動はこれから。豪州も含むアジア太平洋地域が対象となる。GGN傘下組織として、EGNに次いでAPGNは2つ目になる。
- ・各ジオパークにコーディネータ2名(マネジメントと地球科学者, 各1)を置くようにとのこと。
- ・米国もGGNに参加の意向を示しつつある。
- ・日本がGGNに入ったことで、来年からは、GGNへ2件申請する権利を有する。GGNは、将来的には現地審査にAPGNから審査員を派遣したい意向もつ。
- ・GGNに登録された地域は、2年に1度のGGN会議で活動の報告義務がある。APGNにも出席義務が生じるだろう。GGN会議での報告は活動の工夫などが主で、継続性のアピールが重要である。

現地審査報告(資料3-1)

各地域10分ずつ3カ所の報告を行った後、相互比較しながら審議を行うことが確認された。

室戸

8/28～29. 資料に基づき説明。

- (ジオサイトと保全) ジオパークのコンセプトはすぐれており、シナリオとしてかなり明確になってきたのは評価される。反面、付加体の特徴を示すメランジなどを積極的に含めるべきで、室戸地域だけで四国太平洋岸付加体を代表させるには無理がある。説明板や遊歩道が予算化されているが、現時点では未整備なので評価には盛り込めない。全体的に、海と陸の付加体, 段丘, 深層水などテーマはすばらしいが、それらをもっとストーリーとして関連づける必要がある。
- (教育・研究活動) 海外からの研究者が多く、研究数は豊富。来年から、地元高3生に「ジオパーク学」を設定予定なのは評価できる。今後このような実績を積むことが必要。
- (管理運営体制) 世界を目指すのなら、常勤職員と専門家スタッフが必要。キラメッセ鯨館はGGN

の拠点としては狭く、ジオパークの常駐スタッフも必要。

(ツーリズム, 国際対応) 広報活動やグッズ作成は評価できる一方、観光客のジオサイトへの誘導法には工夫が必要。既に6人養成のジオガイドのうち3人は英語対応可能で質が高い。HP英語版は未整備。

(防災, 安全確保) ジオサイトの安全確保が不十分な箇所があり、現地審査までに整備が不可欠。

(まとめ) 2年連続というマイナス影響の考慮も必要だが、今年GGNに出すよりも、いくつかの課題をクリアして申請した方がよい。

<質疑応答>

- 大陸のジオパークにないコンセプトは国際的にも評価される。個々のジオサイトも意義があり、シナリオの材料は十分。一方、運営推進母体の明確化が不可欠で、活動実績ももっと必要である。
- 知事をはじめ県の認識は高まってきており、予算、人事面で具体的な支援も始まっている。ジオパーク推進室が設置される予定である。
- メランジ、チャートなどが多く見られる芸西海岸も入れた方がいい。ただ、最初は西部地域も入っていたのだが、露頭があまり良くない。四万十帯の海岸露頭は良いので、室戸までの途中のスポットを素通りして行くのはもったいない。
- キラメッセには展示があり学芸員もいるが、鯨館なのでクジラに関する内容であり、今後この1室にジオも展示する。国立青少年自然の家にも展示はあるが、専門的な内容を改善する必要がある、もっと広くてもよい。地元大学等から十分な協力、指導が得られる体制を整備し、四国の断面図など新知見にもとづく展示にする必要がある。
- 室戸は看板が台風で壊れることが多いので、床面展示にすることなども検討の余地がある。
- 露頭のコア穴は埋めるのではなく、むしろ学術的重要性をアピールすべきだ。

秩父

7/21~22. 資料に基づき説明。

案内者は1市4町全てから対応。前回7月の委員会での評点を踏まえて現地で意見交換した。

(ジオサイトと保全) 長瀬は、解説板が洪水のため全欠損、危険防止用のバリケード等が景観を損ねている、解説板が目立たない・汚れている、落石など危険箇所があるなどの現状であり、ジオサイトとしては必ずしも見学者に親切となっていない。川下り船頭の説明にジオパークを加えるよう要請した。このほか、鉾山の鉾物標本室、大滝歴史民族資料館、ようばけ、化石館などに、サイトとしての位置づけや解説板等に改善が求められる。武甲山は秩父の開発の象徴であるが、自然の中にどう取り込むか、また、秩父市の観光にジオの要素をどう付加するかが課題。申請書はもっとストーリーを持たせるべきである。

(教育・研究活動) 秩父学は全体シナリオの中での位置づけを工夫し、活動として取り込むこと。

(管理運営体制) 運営組織はこれからであるが、秩父市によると、NPOの盛り上がりとワーキンググループができてきたとのこと。ジオパーク専門の職員を置くべき。

(ツーリズム, 国際対応) ジオツアーとしてもっと充実させるべきである。Webサイトがないので早急に改善すべき。説明板などの他言語化が未整備である。

(防災, 安全確保) 長瀬など危険防止が必要。

(まとめ) ジオサイトとしては魅力があるが、それらをつなげるシナリオが必要である。「日本地質学発祥の地」は重要なキーワードになり、その後の時代論、成因論の変遷を説明にすべき。

武甲山の取り扱いは最大の問題点であり、どう説明していくかの議論が必要。「秩父まるごとジオパーク」というが、もっと絞った方がいい。

<質疑応答>

- 首都圏近郊で初めてなので頑張してほしい。秩父盆地はジオサイトに入れるべきである。博物館

の展示内容が古いので、地質学発祥以降の学問の歴史、特にスタンダードとしての秩父古生層を巡る学問的変遷と、最新の知見を展示してほしい。

- ・ サイトが多様すぎる。材料は良いので、もっとジオの要素を深め、各サイトにつながりが必要。
- ・ ツアーはあるがほとんどは民俗や歴史なので、もっとジオを含めた“ジオツアー”、また、岩石や化石などのサイトが豊富なので、子供たち対象のジオツアーも実施してほしい。
- ・ GGN では、鉱山のことは問題にならないのか。 → ジオパークの中に鉱山があること自体は問題ない。ただし、鉱山はジオパークの運営に関わるべきでない。また、鉱山会社の人からサイトの説明者として入るのは、地元への貢献としてあってもよい。
- ・ 武甲山自体が一つの大きなメランジであり、採掘したから石灰岩とわかる。石灰岩を採掘した歴史が武甲山資料館にある。石灰岩は、CO2とも関連させたグローバルな説明がほしいところ。
- ・ 秩父はトップダウン的な印象を受ける。博物館などと連携したボトムアップの活動を期待したい。 → 定住自立圏構想によって1市4町は連携し始めている。県立博物館や埼玉大とも協力体制ができつつあり、地元のネットワークもできつつある。

山陰海岸

9/10～11. 資料に基づき説明、一部補足。

知事も参加するなど、ジオパークに寄せる地元の思いは強い。

(ジオサイトと保全) 多様性に富み、観光と防災を意識した取り組み(城崎温泉)、鳴り砂の体験的な説明(琴引浜)、質の高いガイド(玄武洞)など、良いジオサイトが多数ある。玄武洞では3人のガイドによる明確で完璧な案内で、時間に応じた対応も可能。一方、日本海形成というテーマが見えるには、もっと説明が必要。地質時代毎の5つのサブテーマももっと説明が必要。地域毎のジオエリアもテーマが複雑なため、整理すべき。人間とジオとの営みについては、コウノトリや鳥取砂丘で地形や第四紀変動と絡めたストーリーが必要。従来不明確であった拠点を山陰海岸ジオパーク館とし、他の施設もサテライト的なサブ拠点として整備している。

(教育・研究活動) 日本海形成に関する研究者が少ないが、兵庫県立人と自然の博物館と鳥取県立博物館が全面的に協力して、展示や教育・研究活動を実施していくとのこと。

(管理運営体制) 昨年より非常に進歩したが、複数行政のため、一体化した運営体制にはまだ努力が必要。推進協議会事務局の但馬県民局が中心。4月以降各県から専任担当者を集める予定。

(ツーリズム、国際対応) 各エリアでおこなっているが、組織的なツアー体制にはまだ努力が必要。既存の観光地からジオサイトへの導き方に工夫が必要である。

(全体的印象) かなり整備されてきたが、まだ不十分な点も目立つ。

<質疑応答>

- ・ 日本海形成のプロセスを理解するのに必要な地質が全て揃っているわけではないため、「日本海形成」というテーマが未消化である。一方で、日本海形成以外の点も評価すべきで、鳥取砂丘は解説板がよく整備され、進歩が認められる。
- ・ 山陰海岸を対象にする研究者は非常に少なく、今後最もフォローが必要なのは研究面である。GGN申請書作成のためには、島根大等との連携により、松山逆転磁極期や第四紀新境界などの最新知見を盛り込んだ説明に練り直すことが必要。
- ・ 組織はまだ十分とは言えないが、事務局体制は順次拡大予定。環境省参画の保護保全管理計画を策定予定。
- ・ ジオツアーがあるのは評価できる。個々のジオサイトのガイドは、山陰海岸ジオパーク全体のイメージを持ってほしい。また、「海岸」であるからには海のことを含めてほしい。油清掃によって琴引浜の海岸を守っている人たちは印象深い。
- ・ 地域の熱心さは認められる。ジオパークが地元の人に根付いており、1年でかなり変わった。特

に各首長が自分の言葉で説明できることに感服。

全体審議

- ・ 室戸は範囲を広げた方がいい。山陰は日本海形成にサポートが必要だが、それ以外に多くのジオサイトがある。秩父はポテンシャルは高いが、長い目で具体的なサポートが必要。
- ・ 今年2カ所申請する義務はないが、1,2位はGGNへの申請能力は高い。1,2位を申請させて、判定はGGNに任せてはどうか。100%完全な申請書を求めたら、地元には永遠に宿題となり、意欲をそがないかと危惧する。推薦書は書くが、落ちる可能性も高いことを伝え、申請の判断は地元任せの方法もあり得る。
- ・ GGNの現地審査の厳しさがよくわかった。GGNに通るかどうかが大切。もしGGN審査に落ちると回復までに時間がかかる。一方、盛り上がっている地元への配慮も必要。
- ・ 2カ所の枠があること、来年の申請予想、そして社会的関心も考えると、今年1件は申請すべき。
- ・ 申請できるレベルまで持って行ってほしいのが委員会の見解。しかし、申請から現地審査までの半年間でどれだけ伸びるかの見極めがむずかしい。
- ・ 1つ、2つのいずれでも、出すのであれば、今回の委員会コメントを来年のGGN審査までにクリアするという条件付きで出してもらうことになる。
- ・ JGCが推薦してもGGNで落とされると、普通は2~3年かかるようだ。そうになると、もったいない。室戸は体制が整ってきてはいるが、山陰に比べると活動が遅れている。
- ・ 「海岸」は日本の代表として重要である。よいテーマさえ考えれば山陰海岸は申請可能。ただし、出すとなれば、テーマは日本海形成にこだわらずに、日本海の多様性で出した方がいい。その部分の見直しをサポートすれば、組織や拠点などまだ不十分な点もあと半年で解決されるもしくは成長が見込めるので、山陰のみという判断もあり得る。山陰で1つとなれば、今後、申請書作成などでJGCのサポートが重要となり、専門家による学術的な指導も必要である。

<審査結果>

非常に詳しい助言をつけて、山陰海岸を候補とする。

休憩

15:30~

現地審査報告 (資料3-2)

委員長より、日本ジオパークについては、秩父を入れた6カ所で審議することが確認された。

天草御所浦

9/7~9. 資料に基づき説明。

現地では化石だけでなくいろいろなものが面白かった。神戸-熊本間の天草エアラインは低空航路のため、機内から野島断層、中央構造線などジオエアの要素が楽しめる。海側からサイトを見られる海上タクシーもジオツアーとなり得る。海に向けて解説板があるのは面白い。解説板は10年前から整備され、英語版もある。やや難解な用語が多いが、ジオパークに向けて今後改善すること。白亜紀資料館はやや小規模だが、地に足がついた活動を積み重ねてきており、島民との連携もできている。学芸員は動植物についても解説できる。化石採集に際して安全面の工夫もできている。産出しない恐竜の展示もあるが、ストーリー次第で展示は可能。一方、日本や九州の中での天草の地質学的位置づけなど、広域視点からの説明がほしい。アイランドツーリズム(島を生かした観光)として民泊を積極的に実施しており、地元の人がガイドもできる。地域に根ざした活動が好印象で、市長もジオパークに対する理解がある。

阿蘇

8/12～13. 資料に基づき説明.

カルデラを舞台にした多様な大地と生態系, 人々の生活と文化からなる多彩なジオサイトがある。102 のジオサイトは多すぎるので 10～20 の重要サイトに絞り, ジオサイトとしての解説板が必要。阿蘇カルデラの成因や日本における 9 万年前の噴火の影響について, 地質学的, 考古学的, 文化人類学的な観点からの説明を期待する。博物館や大学による学術的なサポート体制, ガイド養成講座などのカリキュラムがよく整っている。推進協議会が発足し, 事務局の阿蘇 DC は県からの強い財政基盤を持つが, ジオパーク担当部局が組織されていない。阿蘇カルデラツーリズムなど, 九州新幹線開業に合わせた各種振興策は, ジオパークとの関係の調整が必要。ガイドは, 地質から文化まで幅広い供給体制がある。地元特産品が多いが, ジオとの関わりは再考する余地がある。パンフレットは英, 中, 韓国語があるが, ジオパークについては未整備。活火山として安全への配慮, 防災と観光の両立が大きな課題であるが, 火山活動や火山ガスに対する体制はできており, 以前と比べてよくなっている。

<補足> 潜在能力が本来高い地域であり, 日本ジオパークとして十分推薦できる。ジオでまとめ直せば世界もめざせる。

隠岐

9/14～16. スライドを用いて説明.

島前と島後。2.5 億年前(日本最古)の隠岐片麻岩はおそらく日本海拡大前の取り残し。1600 万年前以降の火山活動による多種にわたる火成岩。風光明媚。氷河時代の生き残りである北方系植物と大陸起源の植物など, 顕著な植物多様性。説明がつかない海岸近くに自生の高山植物, 特異な植物組み合わせ。これらはジオと結びついている。海岸露頭に作られた人道と横穴は日本近代土木遺産。島の古い歴史を示す神社などは貴重な建造物。黒曜石を加工する人が植物や昆虫にも詳しい。隠岐自然館が拠点施設となる予定だが, ジオパークに関する展示は未整備。ガイドブック・マップはよくできている。ガイド養成の活動があり, 人材が豊富で, 地元は意識せずにジオパーク活動をすでに実施している。解説板は整備不足。ジオパークの専任者が不在である。すぐには GGN 申請は無理だが, 将来的には可能性がある。

<補足> ・運営はしっかりしており, 予算も含めた将来計画がしっかりしている。

・研究者は来るが, 観光客はまだ多くない。ビジターはそれなりの知識と目的を持っている印象。

隠岐から見た日本列島という視点があるともっとおもしろい。

恐竜溪谷ふくい勝山

8/10～11. 資料に基づき説明.

プレゼンでの印象に比べ, 現地審査では非常に良かった。恐竜発掘現場と博物館展示が主体で, 年間 40 万人の入場者。今後も入館者が期待できる。館長中心に学芸員 10 人でよく活動している。地球科学コーナーもさらに充実させるとよい。恐竜時代のジオラマも充実しており, 発掘体験もできる。サイトとしての第四紀火山岩地域はスキー場となっている。縄文時代に形成された伏石はジオパークになると保存が進むかもしれない。段丘の上下で武士と町人が住み分けた。段丘端からの湧水が豊富で, 羽二重関連の保存施設とも連携すれば勝山全体のジオパークに発展する可能性がある。ジオに関する解説板の整備が不十分で, 大人用と子供用があるとよい。国際シンポや研究協力が高いレベルで行われている。ジオパークのガイド養成は今後整備が必要。現地審査で評価が高くなった。

<補足> ・博物館で, 砂に埋めた化石を掘らせるイベントをやっていたが, 好ましくない。

- ・恐竜の発掘現場には入れないが、上の駐車場から見下ろすことができる。

白滝黒曜石遺跡

8/21～22. スライドを用いて説明.

考古学的には有名だが、地質でももっと知られるようになるといい。発掘の歴史は古いが、年代が不明だったらしい。白滝道の駅では、できたばかりのジオパークの解説板の内容が難解だった。白滝遺跡は、まだ整備が必要。旧白滝村役場を拠点とするために改装予定であり、現在は石器が収蔵されている。黒曜石の産地は山上に2カ所あるがアクセスに課題がある。各々の黒曜石は質が異なる。カルデラ地形は明瞭には残っていない。大地を形成する火砕流の給源解明は今後の研究課題。黒曜石の石器は平安時代まで使われたらしい。

(まとめ) ジオパークの主テーマは明確で、黒曜石産地の先史時代の遺跡と黒曜石溶岩を形成した火山活動である。考古学と地球科学の接点としておもしろい。前者の研究は進んでいるが、後者はこれから。今後、日高層群、大雪十勝火山群のカルデラ活動史、白滝遺跡当時の段丘など、ジオパークとして対象を広げればテーマは多様になる。全体構想、解説板、パンフ、HP、展示、ジオツアーなどの準備状況は申請段階に比べると急速に進んでいる。現在学芸員は考古1人で、ジオの展示が整備されるのは再来年である。今後の課題は、拠点施設の整備と、ジオから考古学・環境まで説明できる人材の確保、さらに黒曜石の保全である。

秩父

<秩父に関して追加の報告事項>

- ・秩父はジオサイトが多く、潜在的価値は大きく、観光客も多い。県立博物館と自治体の連携もできてきている。

全体審議

- ・阿蘇のサイトから外れている名水百選の場所がある。阿蘇は水も大事なので、入れた方がよい。
- ・秩父は、申請書の内容が今後の計画書のように見える。運営組織の具体的な内容を出してもらいたい。運営母体がないのにジオパークとは呼べない。
- ・秩父は、申請後に博物館が運営組織に加わるなど連携に進歩が見られる。年度内に推進協議会も立ち上がる。博物館とのしっかりした連携のもとジオの部分を立て直し、認定後の活動報告を毎年度義務づけるとともに、場合によっては数年後に再審査も行うという付帯条項をつければ、秩父も認めていいのではないか。
- ・申請地域には、日本ジオパークになったとしても即GGN申請の資格ができたということではないことを明確に伝えていくことが必要。認定された日本ジオパークの再審査や、認定の際に付帯条項があってもいい。今後、そういう認定方法をルーチン化した方がいい。再審査の年限は別途決める必要がある。
- ・これまでの実績が見えないことを考えると、秩父の認定は条件付きでも難しい。ジオパークとしての実績を重視し、秩父については、それをもう1年見せてもらいたい。
- ・白滝は、クマのことを考えると個人での入山は大変だと思うが、地元は楽観的なようだ。考古学的にはまとまっているが、ジオパークとしての今後の実績を見たい。
- ・秩父と白滝の評価が他地域と大きく離れている。白滝はコンパクトにまとまっているので課題は見えているが、秩父はそれがまだ明確でない。

<審査結果>

ジオパークとしての活動実績を評価し、日本ジオパークとして御所浦、阿蘇、隠岐、ふくい勝山の4ヶ所を認定する。

2010年の募集・審査スケジュール（資料4）

資料に基づき説明。

- ・ GGN の 12/1 へ切に合わせ、国内の日程も全体的に早めたい。地惑連合大会での公開プレゼンと質疑応答を検討中。その後の委員会で審議を行い、これは非公開。 → 方針が承認された。
- ・ 日本ジオパークの活動報告も同大会でポスターにて発表する。 → 承認された。
- ・ 今回見送られた地域への報告書は、11 月中頃までに作成する。
- ・ 日本認定を経ずに世界候補へ直接申請してきた今年の例から、申請基準の議論が必要。委員に関しては引き続きやっていただけるものと解釈している。日本からも GGN に加盟したので、来年度は GGN への委員選出を検討する必要がある。他の学会などからの増員も検討の余地がある。
→ 2 月頃までに委員会を開き、議題としたい。事務局で日程調整を行う。

17:10 審議終了